

1 新たに展開する重要事項

1 第5次長期計画について

第5次長期計画（以下、「5長」という。）は、2011年度で事業実施2年目を迎える。「進取と共生、世界に響きあう龍谷大学」をスローガンに、グランドデザインで掲げた将来像（2020年の龍谷大学）を実現すべく、教育・研究・社会貢献・大学運営・施設整備の5つの観点から、構成員が一丸となって改革に取り組んでいる。2010年度は、「管理運営体制の整備」や「広報基本戦略の策定」等の成果を出すとともに、各部署が所管する事業の改革については、時間をかけ、構想の検討に取り組んだ。2011年度は、これら各部署が所管する事業も含め、全学的な改革成果が創出できるよう、執行部がリーダーシップを発揮して5長を推進する。

<5長推進の定着化に向けた取り組み>

現在5長では、全学で50を超えるプロジェクトに取り組んでいる。各事業は執行部や関係部局が所管し、それぞれ事業推進に取り組んでいるが、大学発展に資するためには、これらを大学総体の中で、一体となった改革に繋げていくことが不可欠である。2011年度はこのような観点から、大学としての実施事業の優先順位付けや、重点施策の集中的・効果的な実施体制を整備するなど、“選択と集中”による改革成果の創出を図る。加えて、プロジェクトが円滑に推進されるよう、実施部署と綿密なコミュニケーションを取りつつ、進捗管理や適切なフィードバックに努めるなど、大学執行部がリーダーシップを発揮したプロジェクトマネジメントを行い、着実な業務推進を通じた5長推進の定着化を図る。

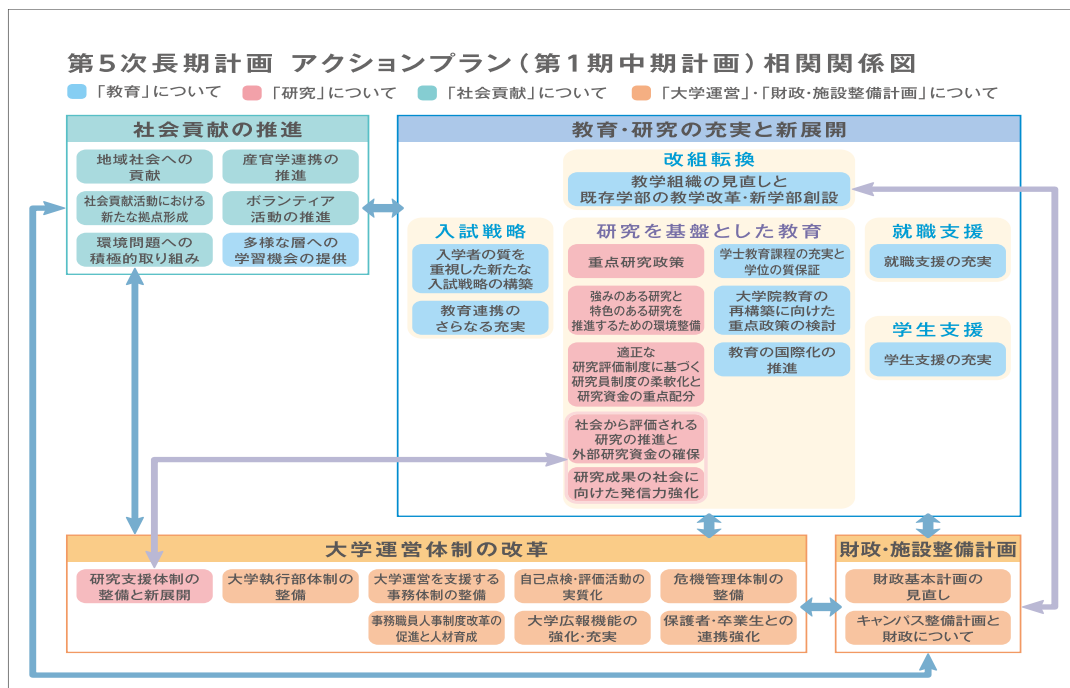
<キャンパスコンセプトに基づいた拠点機能の充実>

5長では、大学が持つ教学資源を有効に活用し、それぞ

れが有機的に連携した大学総体としての改革をめざしている。このため、本学が有する教学資源の現状を踏まえるとともに、各キャンパスの立地環境や成り立ち、地域との関係など、それぞれのキャンパスが備える特徴や特性を踏まえた拠点形成を図る必要がある。2010年度はこうした認識に基づいて、本学の将来的な発展に資すべく、既存3キャンパスの「位置付け」「役割」「機能」等を明確にしたキャンパスコンセプトの検討を行った。2011年度は、各キャンパスの機能や地域性等を考慮して、配置転換を含めた既存学部最適化に取り組み、拠点機能の更なる充実に努めていく。

<キャンパスコンセプトに基づいた学部配置の適性化>

2011年度は、深草・瀬田・大宮それぞれのキャンパスの特徴を顕在化させるとともに、キャンパスコンセプトに基づいた拠点機能の充実に努めるなど、キャンパス毎の機能や役割の明確化に向けた総合的な検討・取り組みを行う。深草キャンパスにおいては、既存学部の再配置など、5長グランドデザインで目指す「多文化共生キャンパス」の実現に向けた、具体的検討を行う。また、瀬田キャンパスにおいては、これまでの取り組みを通じて形成された地域との共生関係や産官学連携の実績、地域社会とのコミュニティの形成などを踏まえ、新たな学部の設置を検討する。大宮キャンパスについては、本学発祥の地、本法人の設立母体である浄土真宗本願寺派「西本願寺」に隣接している立地、本学の原点「文学部」の拠点であることなどを踏まえ、本学の原点（ルーツ）としての要素を活かしたキャンパスづくりを目指す。



<教養教育の再編に向けた取り組み>

5長に先駆け、学位の質保証や教育水準の維持・向上等を目指す「3つの方針（ポリシー）」（学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針）を策定した。今後、これら方針に基づく教育を展開していくにあたり、全学的に影響を与える教養教育の役割と責任は極めて重要となる。このような認識のもと、5長のアクションプラン「学士課程教育の充実と学位の質保証」の中では、組織体制の改革も含めた「教養教育のあり方の検討」を位置づけた。2010年度は、各学問分野の枠を超えて教養教育全体を大所から俯瞰できるよう教養教育を位置づけ直すこと、その組織運営体制を強化することを改革の両軸として議論を進めることが確認された。2011年度は、これらの方向を踏まえつつ、教養教育の再編に向けた取り組みを本格化していく。

<「龍谷スタンダード」の形成に向けた取り組み>

5長で位置づける「龍谷スタンダード」は、大きく①「建学の精神に基づいた『人間力』と共生の精神の涵養」、②「各教学主体の教育を通じて身につけるべき力」の2点から構成する教育を実施する枠組を形成することを目的としている。2010年度は、この枠組を形成するにあたり、その根幹となる「3つの方針（ポリシー）」に沿って、教育目標の実現と学生の学習成果をいかに達成させるかという視点に基づいて検討を行った。2011年度は、「龍谷スタンダード」が学生の将来的基盤となるよう、「3つの方針（ポリシー）」の実質化に重点を置きつつ、さらにその達成の充実に向けた多様な取り組みの推進にも焦点をあて、全学的な検討を進めていく。

2 政策学部・政策学研究所の開設

従来の政治学の枠を超えた学際性を有する学部・大学院の設置が求められているとの認識のもと、法学部政治学科における教育・研究の成果を発展させ、2011年4月に政策学部・大学院政策学研究所を開設する。

<政策学部の教育目的>

建学の精神に基づいて、共生の哲学を基礎に、政策学の教育と研究を通じて広い教養と専門的な知識を身に付け、社会の持続可能な発展のために主体的に行動するとともに、自ら発見した問題を社会と連携して解決できる、高い公共性と市民性を持つ自立的な人材を育成することを目的とする。

<政策学部の教育の特色>

政策学部での学修成果として必要な政策立案と政策実施にかかる基礎的・基本的能力の獲得を保障するために、次の4つの獲得目標を立て、順次性のある教育体系を構築する。

(1) 知識

- ①持続可能な発展という考え方を知るとともに、人類的及び地域的課題を理解し、課題解決に必要な政策学に関する基本的な学問的理解力を持つことができる。
- ②地域課題解決への協働型アプローチの有用性について事例分析をベースとした基礎的知識を有し、協働の担い手を地域公共人材という視点から考える基本的な認

識力を持つことができる。

(2) スキル

課題に関わる調査の報告や情報を活用できるスキル、政策実施のプロセスにおいて必要なコミュニケーション・スキルの骨格的な部分を修得することができる。

(3) 志向性

新しい公共性・公益性を担う市民としての社会的責任をモチベーションとして獲得することができる。また、生涯学習への意欲を持つことができる。

(4) 能力

社会と連携し市民の協働によって解決するという見方に立って、政策を立案し、実施するために必要な基本的能力を獲得することができる。

<政策学研究所の教育目的>

建学の精神に基づいて、共生の哲学を基礎に、現代的で人類的な課題に対する専門知識に支えられた市民的思考力と、協働による課題解決アプローチを構想できる政策研究能力を修得し、政策の立案実施にかかる能力を持った人材を養成することを目的とする。

●修士課程の教育目的

市民的公共性と持続可能な発展への貢献を志向性として獲得し、地域がかかえる具体的課題を政策分析の対象として扱うことができる政策学の学問的知識を修得し、地域の課題を設定して解決できる能力を有する専門的職業人及び研究者を養成する。

●博士課程の教育目的

市民公共性と持続可能な発展という考え方を自ら考察でき、地域課題を包括的で統合的な政策によって解決できる政策学の知識と構想力を有する研究者及びより高度な専門的職業人を養成する。

<地域協働総合センターの設置>

政策学部及び政策学研究所に所属する教員の実践的研究による先進的研究結果を、具体的に大学教育及び大学院教育並びに人材育成の教育プログラムとして展開することを目的として、政策学部及び大学院政策学研究所のもとに「地域協働総合センター」を設置する。

3 短期大学部の改組

短期大学部では、2011年4月、保育・幼児教育を専門とし、保育士および幼稚園教諭の養成を行う新学科「こども



教育学科」を開設する。また、1962（昭和37）年4月に開設以来、時代のニーズに応え社会福祉学分野に数多くの卒業生を輩出してきた「社会福祉科」は、「社会福祉学科」に名称変更し、更なる教学の充実を図るべく、新たな教学展開を開始する。

<こども教育学科の教育目的>

建学の理念の一つである「共生（ともいき）」（すべてのものは、互いに依存しながら存在する。相手を知り、自らを知る。互いの違いを認め合い、支え合うことで、高めあうことができる。）の理念を軸に、これまでの社会福祉科保育士養成の伝統と実績を受け継ぎ、時代が要請する保育および幼児教育の専門職を養成することを目的とする。

<こども教育学科の教育目標>

保育や幼児教育の現場においてこども同士の「共生（ともいき）」を促し、励まし、見守り、支えることができる専門職を養成する。こども同士の間には年齢や発達段階、性別、障がいの有無等様々な差異があるが、そうした差異を認めた上で、こども達が喜怒哀楽の感情を交わしつつ、共に過ごす時間・場所・機会を生み出すための試行錯誤を支援できる専門職を養成することを教育目標とする。

<「社会福祉科」を「社会福祉学科」に名称変更>

2011年4月より、社会福祉科から社会福祉学科に名称変更する。長年培ってきた社会福祉学の理念を礎に、「社会福祉士国家試験受験基礎資格」を取得できる「社会福祉コース」、多様な学問分野を自ら選択しキャリア形成を可能とする「教養福祉コース」を設置し、新しい教育体制でより一層の教学充実を図る。

4 龍谷ミュージアムの開館

本学創立370周年記念事業の一環として進めている「龍谷ミュージアム」を、2011年4月5日に開館する。この博物館は、釈尊の誕生から現代の仏教までを分かりやすく紹介する、他に例のない仏教総合博物館である。地上3階地下1階の建物は、私立大学が設置する美術館や博物館としてはトップクラスの規模を誇る。

<開館記念特別展の開催>

オープニングは、龍谷ミュージアムの開館及び親鸞聖人750回大遠忌法要記念として、「釈尊と親鸞」をテーマに1年間にわたり開催する。会期を6期に分け、本学や西本願

寺が所蔵する貴重な文化財を中心に魅力溢れる展示を行い、大遠忌法要の参拝者や観光客を積極的に誘致し、初年度は年間20万人の入館者を目指す。

<2012年度以降に開催する特別展の検討>

開館2年目(2012年度)以降に開催する特別展について、新聞社や放送局との共同開催を視野に入れた検討を行う。テーマや展示資料の具体的な検討を行いつつ、関係資料を所蔵する学外の機関等へ出陳要請を行う。

<調査・研究活動の推進>

龍谷ミュージアムにて開催する展覧会がより充実した内容となるよう、館長・副館長・ミュージアム教員を中心としたプロジェクト体制のもと、調査・研究等の活動を積極的に推進する。

5 教育・研究環境の充実について

<深草学舎新棟の建設>

深草キャンパス西に位置するテニスコート跡地に、2012年後期からの利用開始を目指し、新棟(地上4階地下2階、延床面積約15,000㎡)を建設する。教室4フロア、政策学部研究室1フロア、食堂1フロア等を配する新棟は、2011(平成23)年4月開設の政策学部に必要な施設であるとともに、耐用年数が近づく1号館や学友会館の一部機能等、施設の再取得に繋がる施設でもある。

<大宮学舎「白亜館」を活用した研究の推進>

2011年3月、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された「アジア諸地域における仏教の多様性とその現代的可能性の総合的研究(代表:桂紹隆 文学部教授)」の研究拠点として、大宮学舎に「白亜館」を竣工した。この「白亜館」を仏教研究の拠点とし、21世紀における仏教研究の新たな地平を拓くことを目指す。

<情報教育環境の充実>

教育研究用の新たなメールシステム及びコミュニケーションツールとして、Google社が提供しているGmailを導入する。Gmailを包括するGoogle Appsは、メールの他にも多様な機能があり、今後これらを学生、教員、職員が利用することで、コミュニケーションを円滑で効率的なものにする。また、学生証のICカード化、証明書自動発行機の更新、事務システムの開発など、情報教育環境の充実に努め、学生の利便性及び教育環境の向上に取り組む。



龍谷ミュージアム外観



展示室内 ベゼクリク石窟寺院復元コーナー